
「お嬢様の憂鬱」

三毛猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「お嬢様の憂鬱」

【Nコード】

N0891BA

【作者名】

三毛猫

【あらすじ】

引きこもりお嬢様とメイドの日常。

【お嬢様】 【鳥】 【電子レンジ】のお題で書かれた掌編です。

以前texpoにて公開していました。現在pixivにても「三毛猫の三題話」の一遍として公開中です。

「所詮わたしは籠の中の鳥……お父様の手のひらからは逃れられないの……」

窓辺に佇み、ふう、とため息を吐いていたら、

「お嬢様の場合、単なる引きこもりでしょうか」

と、みどりさんに怒られた。ひとの恥ずかしいセリフを立ち聞きしないで欲しい。

「お風呂も、トイレも、冷蔵庫もテレビも電子レンジもお部屋にあるんですもの。これらは全て、お父様が用意してくださったものですのよ？ つまり、お父様が外に出る必要なんて無いとおっしゃっていることと同じだとは思いませんか？」

「思いません」

「あまぞんさんだつて、ピザ屋さんだつて、お部屋まで届けてくれますのよ？」

「ベランダに表札とかつけないで下さい」

「ねえ、みどりさん、ピザ食べません？」チーン「ほら電子レンジでいつでも熱々！」

「食べません。そんな体に良くないものばかり食べてないで、ちゃんと食堂までおりてきてください」

「にんじんを出さないなら、考えてみてもいいですよ？」

「クリスマスイヴを過ぎたい大人が、なに子供みたいなこと言ってるんですか」

「子供で結構ですよ！ 歳のことは言わないで下さい！」

「見た目は大人、頭脳は子供というやつですか」

「……なんだかすぐ馬鹿にされているような気がしますけれど？」

「失礼、見た目も子供でした」

「今どこをみて言いました……？」

(後書き)

ダメな引きこもりお嬢様。メイドのみどりさんとの掛け合いが
気に入る。オチは弱いですけど。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0891ba/>

「お嬢様の憂鬱」

2012年1月2日00時48分発行